

# 作文コンクール 佳作

## 北方領土について

斑鳩町立斑鳩南中学校 小川 紗希

現在、日本が抱えている問題のひとつに、「北方領土問題」があります。北方領土とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つの島の事です。これらの島はもともと日本のものであり、多くの日本人がこの地域に渡航していました。しかし第二次世界大戦末期、ソ連は当時まだ有効であった日ソ中立条約に違反し、北方領土を一方的に自国領に編入しました。当時北方領土に住んでいた1万人をこえる日本人は、強制的に退去させられることとなりました。

北方領土では今もなお、ロシアによる不法占拠が続いています。突然自分の住んでいた島を離れることになった人々は、ふるさとに自由に行き来することも出来ず、苦しい思いをされていると思います。その人々も、戦後70年経った今では、年々老いていきます。一度もふるさとへ帰ることができずに亡くなられた方もきっとたくさんおられるのではないのでしょうか。当時の苦しみを知る人々が北方領土問題の解決までになくなってしまったら、ふるさとを失う気持ちを伝えていくことは難しくなります。すると、多くの人がこの問題へ向き合い、北方領土を返還されることが、より遠のくかもしれません。

私は、なぜこんなにも苦しんでいる人々がいるのに不法占拠を続けるのか、気が気でなりません。そこで、ロシア側のメリットについて考えました。

地理で、「排他的経済水域」を学びました。これは、国の領土の沿岸から200海里までの海域の事です。この範囲では天然資源の開発や、構築物の設置、利用などが認められています。一つの島でもその周辺のかなりの水域を入手できるということなので、ロシアが不法占拠を続ける理由のひとつには、この水域から得られる資源、そしてそれが経済に与える影響があると考えました。

しかし、日本には返還される確かな理由があり、もう何十年も交渉を続けてきています。正当に返還を要求しているのに、現在は北方領土に関する報道を聞くことすら少なくなっています。私は、これはおかしいことだと思いました。同時に、ロシアだけにではなく、日本にも問題解決が遠く理由があるのではないかと考えました。

二度目になりますが、現在、北方領土に関する報道を聞くことは少なくなっています。まずは、これを変えるべきなのではないかと思います。学校で北方領土問題のことを「知識」として知るだけでは、現状を変えようと思いつくことは難しいのではないのでしょうか。私はこの作文という機会を与えられて、自分に関係のあることだと、ようやく感じる事ができたように思います。決して全ての人に作文を書くことを強制するのではなく、このような機会をもっと増やすことが必要だと、私は思っています。私一人では、国を動かすことは出来ません。しかし、一人一人がこの問題を知り、理解して、声を上げれば、現状は変えられると信じています。